



⑫ 英国領事代理御名代御旅宿日記

明治4（1871）年5月

横浜からの生糸輸出が活発になる一方で、明治初年には生糸の品質粗悪化が外国商人との間で大きな問題となっていました。そうした中、外国人の上州蚕糸業地帯の視察が相次いで行われました。明治2年のイタリア公使デ・ラ・トゥール一行（史料②③）、明治2年・3年の英国公使館書記官アダムズが有名です。この史料には、明治4年に訪問した英国領事ロバートソンや大学南校（東京大学前身）の教師サンデマンとメイショルらに関する記録が詳細に記されています。

前橋市・松井家旧蔵文書 P01013 No. 201

進与先觸書早々相廻し
承知の旨、別紙請書相い添え
留まりより宿村継ぎを以て当
御役所へ相返すべく候事

記

横浜在留英國領事、明後十五日
東京発足、代理名代として養蚕方
高宮豊、池田部右、久保通房、通
引、小糸、兼相達、等、相廻し候

【史料⑫】

追つて此の先觸書、早々相廻し
承知の旨、別紙請書相い添え
留まりより宿村継ぎを以て当
御役所へ相返すべく候事

記

横浜在留英國領事、明後十五日
東京発足、代理名代として養蚕方
穿鑿のため、随従都合四人、左の道筋通
行いたし候条、兼ねて相達し置き候通り、相心得

宿村に於いて、諸事不都合これなき様取り計らうべき
もの也

驛廻

辛未五月十三日 御役所
川越街道
上板橋より
小川越

小麻理
下仁田
富岡
安中
高崎
前橋
鳴村
中仙道
板橋宿迄
右宿村役人

辛未五月十三日 御役所

川越街道

上板橋より
川越
小川
小鹿野
下仁田
富岡
安中
高崎
前橋
鳴村
中仙道
夫より帰路
板橋宿迄
右宿村役人